

## 令和2年度第1回総合教育会議会議録

開催日時	令和2年5月22日 金曜日 13時30分から15時17分まで
開催場所	二宮町町民センター2A クラブ室
出席者	村田邦子町長、森英夫教育長、山内みどり教育長職務代理者、岡野敏彦教育委員、渡辺優子教育委員、野谷悦教育委員
町部局	政策担当部長
教育委員会	教育部長、教育総務課長、生涯学習課長、教育総務課長代理、教育総務班長
その他	傍聴 6人

※会議次第および資料は、別添ファイルのとおり

### 会議記録

#### 1. 開会

(司会：教育部長)

開会にあたり、司会（教育部長）より会議の公開を諮る。

—許可、傍聴者入室、着席—

#### 2. 町長挨拶

(町長)

令和2年度の第1回目の総合教育会議ということで、主に新型コロナウイルス関連で学校が休業になっている現状と今後の対応を中心に意見交換をしていきたいと思います。また本日の午前中、黒岩知事とそれぞれの市町村長とのテレビ会議で意見交換をする機会があり、私からは教育の問題1本に絞って話をしました。詳しくは後ほどお話しします。

#### 3. 協議・調整事項

(町長)

それでは意見交換の方に進んでいきたいと思います。まずは今年度の総合教育会議で取り組むテーマについて、決めていきたいと思います。事務局の方から説明をお願いいたします。

—事務局より説明—

(町長)

大きくは新型コロナによる学校休業関連とそれ以外のものという区分けにして、現時点で各回の総合教育会議のテーマを決定するのではなく、その時々状況を踏まえて決めていくという流れで行きたいと思いますが、よろしいでしょうか？

—全員、了承。—

(町長)

それではこれから「学校休業の状況と今後の学校再開に向けた取り組み」また「社会教育施設の再開について」ということで事務局の方から説明をお願いします。

—事務局より説明—

(町長)

まず学校の休業中のこれまでの取り組みと再開等についてですが、午前中の教育委員会定例会でも話し合われたかと思いますが、教育委員の皆様からのご意見はございますか。

(岡野委員)

学校が休業となってから、すぐに教育委員の中で話し合いをしました。当初は学習の遅れが心配されたところですが、これが長期戦になった場合に大きく二つの問題があるという結論に至りました。一つは家庭学習による学習格差、二つ目は集団生活ができないことによる社会性がはぐくまれていかないことです。一つ目は、例えば学校からの情報発信や学習課題の提供などが充実していないと学校の授業を補完することは難しいと思います。オンライン授業も一方通行のものだとやはり難しく、先生と児童生徒が双方向にやり取りできるものが必要だろうという結論になりました。また学校に行かない生活が続くと生活のリズムが崩れやすく、オンラインで朝の会を行うなどして生活リズムを整えることも重要な要素だという意見もでました。

(町長)

教育委員の皆様で情報を共有されたとのことですが、私も今回の休業を受けて学習の面だけでなく、子どもの精神面や身体の面も考えていく必要があると思います。神奈川県発表や県内の動向によっては6月1日からの学校再開にも影響がでてくるかと思っています。予定通りに進んでも6月の一か月間は分散登校になりますから、その間も今ある機材を活用することになると思います。タブレットの貸出しについて進捗状況はいかがですか？

(教育総務課長)

6月1日からの貸し出しは難しいですが、なるべく早めにタブレットの貸与を進めたいと考えています。現在、タブレットへのオンライン会議アプリのインストール作業を進めていて、準備ができ次第、貸出しをしていきたいと考えています。

(町長)

準備の方は進めていただきたいと考えています。先ほど話があった家庭学習の格差の面などについても様々な手段を使って補っていくしかないと思います。また6月1日の学校再開についても何かあればスケジュールの遅れなども出てくると思いますし、学校での学習とオンラインを平行して使っていくということが必要になってくるかと思います。

(山内委員)

オンラインを普段でもうまく活用できれば町の魅力の一つとしてこのコロナ禍というピンチをチャンスに変えることができるものと思います。また、各学校が作成されている動画についても各校で共有することもできるのではと思います。ゴールデンウィーク明けには各学校で学習動画をはじめホームページを活用した情報発信が盛んにおこなわれるようになりました。これは本当に先生方のご尽力の賜物です。可能であればその状況なども町側で町民の方へ知らせていただくなどの対応があればなお良かったのではないかと思います。

(町長)

新型コロナの影響により、GIGA スクール構想が一気に進む状況になりましたが、実は町からは当初予算時には1人1台の端末整備も教育委員会側に提示していました。委員会側は学校の準備もあることから、まずは教員の研修をしながら順々に整備を進めていきたいというやり取りもありました。

(教育長)

学校のホームページもなかなか進まない状況がありました。今回の新型コロナの状況により学校もその必要性を認識し、一気に進んでいきました。

(町長)

タブレットや学校ホームページについては、この流れが後退することはありませんが、学校ホームページや学習動画の質などは先生の力量に左右されると思いますので、今後、ブラッシュアップしていただきたいと思います。また今日の午前中には県知事とビデオ会議を行いました。学校向けのICT研修という点では県としてもまずは指導主事を中心に研修を進めたいという話もあり、そういった機会をうまく学校へ還元して力量アップにつなげていただきたいと考えています。

(岡野委員)

先生の力量をブラッシュアップしていくことはまさにその通りだと思います。だからこそ、学校単位ではなく、オール二宮でやっていくという発想が必要なのではないかと思います。例えば分散登校になれば見守り活動が必要になってくると思いますし、学校と地域・保護者といった関係をうまく連動させてあらゆることに取り組む必要があると思います。うまく進めていくためにはまずは知ってもらうことが必要で、町としても二宮の教育活動を支えているんだという意思表示を強くしていただけないかと考えています。

(町長)

オール二宮という視点は私も同じ思いです。一方で先生もご自身が受け持たれているクラスや教科に対しての思いもお持ちだと思います。今回は学校にとっても先生方にとっても初めての経験であり、これをきっかけにこれまでの各学校の特色や強みを生かしつつ、横の連携も意識して学校運営を進めていく必要があると感じているところです。

(野谷委員)

教育委員で話し合う中で、学校が休業して心配される点は子どものコミュニケーション能力不足、学習格差の拡大、学習保障の3点でした。その中で学校ホームページは長年の課題でしたが、ようやく形になり、ゴールデンウィーク明けから徐々に内容が充実してきました。さらに紙の課題を郵送し、回収もしていただいています。オンラインについては町統一で朝の会から始めてみるということで、徐々に進めていければ良いのではないかなと考えていますが、一番危惧されているのは学習保障です。3月～5月までにやる予定だったカリキュラムをどうこなすかということは難しい問題で、小中の連携ですべての教科とはいいいませんが、主要教科だけでも重点的に取り組むべき箇所を決めていく取組みができないかと考えています。様々な課題を解決していくには学校だけではなく、人的、財政的な支援は不可欠です。特に人的なものについてはなかなか人が集まらないという状況はあると思いますが、地域の方々の協力もうまく取り入れながら進めていただきたいと考えています。

(町長)

学校再開時は分散登校ですから1人の先生が同じ授業を2回するなど負担もかかってくると思います。午前中の意見交換の中では県知事も教員の加配について言及されていました。特にスクールサポートスタッフについては県の補正予算で追加されるとのことでした。これらの方々もうまく活用して先生方の負担軽減につなげていただきたいと考えています。あとは分散登校については先ほど事務局から説明がありましたが、私も妥当なやり方だと考えています。このとおり実施して、うまく通常登校に繋がっていけば良いと思います。

(教育長)

様々な要因に柔軟に対応する必要性はでてくると思います。現状では1か月の分散登校の後、通常登校に移行するというスケジュールで進めていきたいと考えています。

(山内委員)

6月まであと10日間ありますが、生活リズムが崩れている子どもも多く、普段働きにでている保護者が家にいるご家庭もあるのではないかと思います。そういう意味では学校の先生方も各家庭に電話をして、子どもの様子を確認されるといった取組みをされているところもあるそうです。あらゆる手段を用いて子どもと直接コミュニケーションをとることがとても大切だと思います。

(町長)

私もこのような状況だからこそ直接、子どもと話をするということがとても大切なことだと感じています。それが例えばお手紙のような一方的な手段だったとしてもアナログとデジタルを駆使して、あらゆる手段を用いてやっていく必要があると思います。現在は二宮町の学校ではどのような取組みを進めていますか。

(教育総務課長)

現状の取組みとして、二宮西中学校は学校ホームページで「デジタル朝の会」を始め、子どもたちに毎朝見るよう促しています。小学校は「めあてカード」を作って毎日身体を動かすための仕掛けづくりなどを進めているほか、二宮中学校では家庭との電話の仕方を工夫し、子どもから電話をさせてくださいとお願いしています。一色小学校はポストカードを学習課題に同封するなど、先生方の声が子どもたちに届くように工夫しています。

(教育長)

神奈川県では各学校から子どもたちへ向けた動画をyoutubeで放映しており、二宮町でも収録した動画を県へ提出しています。しばらくの間は見るができるようです。

(山内委員)

先生方も丁寧に動いていただいて嬉しく思います。加えて、町の防災無線で学校の校歌を流したり、各学校の様子を新聞の折り込みや町の広報誌を活用して情報発信することも、子どもたちが学校への意識を高めてくれることにつながるのではないかと考えています。

(町長)

情報発信をしていくという考えには賛成です。そういう意味では折角、学校のホームページが立ち上がったわけですから、この手段を活用しないわけにはいかないと思います。

(教育長)

まだ数は少ないですが小学校ではホームページ上に音楽の授業動画を各学年で提供し始めています。楽器の音であったり、学校の先生の生の声が入っていたりしてそういったものを聞くことによって少し学校との距離感が近くなるのかなと思います。

(岡野委員)

情報発信という点では教育委員同士で意見を出し合いました。例えば学校へ電話した際の一次対応を音声ガイダンスにして日替わりで学校の先生の声にするとか、子どもの学びを保障するためにとにかく使えるものやできることはどんどん取組むなど、今はクオリティよりもスピード感が最も大切なことだと思います。

(町長)

とにかく前例のないことですから、町としてもやれるところからやっていくという姿勢は応援したいと思います。必要なものには財政面でもバックアップできればと考えています。

(野谷委員)

新聞の折り込みを使うというやり方はとても有効な手段だと思います。町民の方々がまず見るのは新聞で新聞本誌よりも最初に見るのは折り込みだと思います。二宮町では今こんなことをやっているという現状や今後の取組みについて丁寧に紹介することが大切だと思います。

(町長)

タイムラグがありますが、町広報誌の7月号には学校の様子などを特集で掲載する予定との報告を受けています。学校ではどんな取組みが行われているのかということについてわかりやすく伝えていきたいと考えています。

(岡野委員)

オンライン授業については一過性で終わるのではなく、これが定着すれば不登校の児童生徒への有効なアプローチの一つになりうるものだと思います。日常的に活用できるものとして意識を持ちながら、広報を含めて進めていただきたいと考えています。

(渡辺委員)

学校休業により家庭でも様々な気づきがあったのではないかと思います。日中を家庭で過ごすことによって家族以外とのコミュニケーションの機会が失われ、普段の学校での集団生活の大切さを実感したと思います。6月から学校が再開されるわけですが、子どもの心のケアについては特に気を付けていただきたいと考えます。私も二人の小学生がおり、この3

か月で一番お願いしたかったのは学校の先生方からの子どもへの声かけでした。先生方が休業期間中も学習課題の作成やホームページへの情報掲載、学校再開に向けた準備などに日々奔走されていたことは知っていましたが、もう少し何に力を注いでいくかということについて明確にできなかったのかなという思いもあります。今回のことは学校にとっても、行政にとっても初めての経験で手探りの中で進めてきた中で振り返ってみると、今後に生かすべき課題が見えてきたのかなと思います。例えば中学校 1 年生に対しては中学校にどんな先生がいるかがわからない中で、小学校の先生方からのフォローもできたと思いますし、小学校 1 年生に対する幼稚園からのフォローもできたかと思います。そういう意味では幼保小中の連携も今回、見えてきた大きな課題の一つなのではないかと思い、同じことが起こった場合の課題解決に繋げていただきたいと考えています。

(教育長)

家庭への電話連絡については、学校に子どもの安否確認を優先してほしいとお願いしていました。そういう意味では子ども一人一人への連絡というよりは家庭単位に電話をしていたケースもあったと思いますし、反省すべきところだと思います。

(渡辺委員)

オンライン授業という点については、教育委員の意見交換の中でも通常の授業をオンラインでという高度なものをいきなり求めるのではなく、オンラインでのホームルームからやっていけばということになりました。昨年度末から突然、国の方で急激な学校の ICT 整備を推し進める方向が打ち出されたわけですが、町としてもしっかりとした方向性を打ち出していく必要があると思いますし、そこには町長のリーダーシップをとっていただきたいという思いがあります。

(町長)

町としては昨年度から学校の ICT 化を進める方向性は既に打ち出していますし、そのためのサポートはしていくつもりです。あとは具体的にどう使っていくかという点について学校が決めていく過程で、あまり町が具体的なところまで学校教育に踏み込んでいくべきではなく、あくまで財政面や制度面での環境整備をサポートしていくべきだと考えています。

(教育長)

私も町が具体的なところまで教育現場に介入すべきではないと思っていますし、行政はあくまで環境を整備し、学校経営については学校現場が主体的に取り組むべきところだと考えています。学校ホームページも委員会は枠組みを提供しましたが、その後の進め方はある意味、学校へ一任しています。その中で各学校のホームページにも特色がでてきているわけで、そのことは教育委員会としても尊重してサポートしていきたいと考えています。

(町長)

学校ホームページについては、数年前からの課題であったと思います。今回の学校休業もあり、ようやく開設に進んだわけです。なかなか進まなかったことには学校側の理由もあったと思いますが、それが今回の件をきっかけにできたわけで、ただできて終わりというわけではなく、今後、誰が情報を更新していくかといった部分は引き続き課題もあるかと思っています。その部分については行政側としてもサポートしていくところはあると思います。

(渡辺委員)

行政として強かにバックアップをしていただけることについては理解しました。一方で整備したものの具体的な使い方や実際の体験を重視するという教育方針があった場合などについても各学校の意見を尊重していき、結果、整備したものの活用が進まないということもあると思いますが、それはある意味、許容するということでもよろしいのでしょうか。

(町長)

学校教育は各授業の中で何をどう子どもに教えていくかということについては目標値があります。その中で ICT はあくまで手段であり、それを使うこと自体が目的ではないと考えています。各学校、各先生の考え方により多少の違いは当然でてくると思います。

(教育長)

町としての教育基本方針を各学校へ伝え、それを受けて各学校が教育課程を編成することになります。どう授業を進めていくかという点については教育委員会として指導やサポートはできますが、強制をすることではありません。具体的な授業の進め方は各学校がその地域性や子どもたちにあったやり方を考え進めていくことになります。

(岡野委員)

ICT の活用には幅があるように思います。例えば授業の中で子どもと先生とのやり取りに使うケースや町内の学校間で子どもが交流するケース、もっと広い視点で考えれば日本中や海外の他の学校の子もたちとの交流に使われるケースなど、今までにない発想もでてくると思います。ただ、これはすぐにできるわけではなく、まずは使ってみようという考えのもとじっくりと取り組んでいく必要があるのではないかと思います。

(町長)

そういう意味では先ほど県知事から話があった指導主事の研修もありますが、民間の方がもっと色々なノウハウを持っていると思いますので、それらも活用しながら制限をかけすぎず、ただし情報に溺れないようにうまく学校現場でも取り入れていければ良いのではな

いかと思います。

(山内委員)

今回新型コロナ禍により、社会全体で ICT を使ってコミュニケーションをとるという動きにつながっているのですが、子どもたちにとってもタブレットを使ってコミュニケーションをとったり、世界情勢を確認するという手段に触れる機会にもつながっています。

二宮町としてはコミュニティ・スクール、小中一貫教育という大きな柱がありますが、これについてはしっかりと方向性を持って、今回の経験をうまく利用して同じ方向を向いて目標達成に繋げなければいけないと考えています。そういう意味でもまずは学校等の取組みを広く町民の方々に知っていただくことは大切だと思います。

(野谷委員)

学校のホームページは、一般的に学校は様々な課題がある中で一部の方の努力で何とか続けていたという面があります。二宮町でも学校ホームページをどう運用していくかは学校にとって大きな課題だと思います。今、1人1台のタブレットが整備される状況の中で学校教育のあり方も大きな転換点に差し掛かっています。長く教育に携わってきたものとして様々な思いはありますが、ICTによる教育の変化は前向きに捉えていきたいと考えています。私が一番心配していることは3か月の休業期間のカリキュラムをどう進めていくかについて、これはオール二宮で対応していただきたいと考えています。

(町長)

学校再開に向けて意見交換をいただきました。予定では6月から学校が再開されますが、1か月は分散登校で月の半分は家にいる状況です。タブレットを使った双方向のやり取りは現時点で実現していませんが、学習課題の郵送や学校ホームページの開設、動画配信といった手段で、近隣自治体と比較しても二宮町は学習格差がでないようにしっかり対応していると聞いています。今後もいつ休業になってもおかしくはない状況だと思いますので、速やかに必要な対応が取れるよう、一方で準備は進めなければならないと感じています。

続いて、生涯学習ですが図書館では本の貸出し再開を予定していたり、他の社会教育施設、体育施設なども安全に配慮しながら順次、再開を進めていきたいと考えています。安全に利用するためには、例えばラディアンホールの定員を半分にするといったことなど新たなルールをつくることも考えなければならないため、現在、担当課の方でルールづくりを進めているところです。私も町民の皆様から早く使いたいという声を聞くことがありますが、安全面を最優先に段階的に進めていきたいと考えています。他にご意見はありますか。

(渡辺委員)

公共施設の再開については、子どもの居場所づくりという視点を持っていただければと考

えています。3か月の休業中は子どもの居場所が少なかったように感じ、そのことで子どもたちへの影響も大きかったように感じています。安全面に配慮しながらも学校施設や公園、様々な場所に子どもの居場所を作っていくような働きかけをできれば良いと考えています。

(町長)

子どもの居場所づくりという点では、今年度は東京大学果樹園跡地を活用した取組みなども検討する予定です。今後、これらの検討を進めていく中で町としても子どもがゆっくりと過ごせるような居場所づくりを考えていきます。

(教育長)

学校の校庭開放については、緊急事態宣言により外出自粛になってしまい利用ができない状況が続いていましたが、解除されれば積極的に再開に向けて動きたいと考えています。

(町長)

各ご家庭では子どもの見守りという点で、様々な要因により十分に目が行き届かない状況もあるかと思います。学校再開時は家で過ごす期間が長かったこともあるため、福祉部門とも連携して個々にきめ細かくサポートしていきたいと考えています。また皆様の方でも心配な状況を把握された折には、情報をお寄せいただければと思います。

(山内委員)

コミュニティ・スクールについては、この機会に推進できる部分があるのではないかと考えています。町長からも地域の方々に学校へのサポートをお願いできるのではないかと思います。よろしく申し上げます。

(町長)

緊急事態宣言により会議の場も少なく人に会う機会もありませんでしたが、行政だけではできることは限られてきますので、様々な機会を捉えて地域の方々へもお願いできることはしていき、サポートをいただけたらと考えています。本日は活発な意見交換をしていただきましてありがとうございました。それでは進行を事務局へ戻します。

(教育部長)

貴重な意見をいただきありがとうございました。今後の参考にさせていただきたいと考えています。それではこれを持ちまして令和2年度第1回総合教育会議を終了したいと思います。ありがとうございました。

—会議終了—